

第五回 顎関節と体全体との関係その5

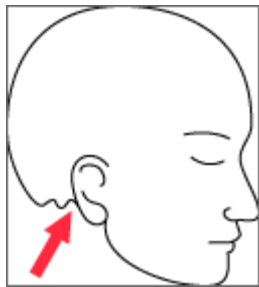


図 A

耳たぶの裏のあたりに左右の指を入れてください。

狭い側が顎関節症側、広い側はその反対側ですが、おしりの真中の骨（仙骨）のズレを正しくすると時には一瞬に顎関節症側が左右が逆になる時があります。

もちろん左右の足の長さも逆になり、首の左右に付いている筋肉（胸鎖乳突筋）の腫れも逆になります。

指を入れたこの突起の骨、側頭骨は頭蓋骨の側面から下（頭蓋底）へ、巾 2cm 弱が左右の側頭骨が真中近くまで伸びています。その骨が互いに逆方向に捻れ、顎関節図 1、2 で示したように逆方向にズレるだけでなく、左右に捻れた状態でズレる為、側頭骨の前・後の骨（蝶形骨・後頭骨）が捻れて、左右の歯の咬み合わせの高さの狂い、首の一番上の骨を捻ってしまい、それを補正している腰の骨も捻れてしまい、次々と体全体を狂わせます。

頭蓋骨が正常な状態になれば、左右の足の長さ、ヒザ、骨盤、背骨、首の骨はほぼ正常と考えられます。が、顎関節症は顎だけの問題ではなく、体全体の問題です。顎だけの問題にしている為に、歯科大学始め、ほとんどが顎関節症を治せないのです。

米国の某歯科大学では、体全体を診察しながら顎関節症を治しているとの事です。